

多し、故をもて現今我國に存するもの、甚乏しきに至れり、横  
畫の東海道五十三次、および魚盡しの繪畫等、最行はる、これ  
廣重か腕力、超凡なるを以てにあらずや。

正誤 前號廣重傳中、天保年間の條、八朔御馬進獻云々は、  
誤なり、御馬進獻は、年々八朔に、幕府より馬を朝廷に進獻  
する古例なり、天保十三年北村季文氏が作りて、幕府に奉り  
し、幕府年中行事歌合を閲するに、廿五番、左、馬御進獻、  
久堅の雲のうへまで行ものは、秋の月毛のこまにぞありける、

注に、馬御進獻は、馬屋の中の駒を撰ばれ、八月朔日に、在京の大番頭を御使にて、内裏へまゐらせらるゝ事なり、これは、古の駒率のなごりにやさふらぶらんとあり、駒率の事は、公事根源などにも見えて、其の例甚古し、一説に、此の時廣重は、幕府の内命を奉じ、京都に到り、この駒率の例式を書きたるなり、或人この駒率の畫卷物を藏せりと。

(廣重傳をはり)

午前五時より額かける、九時に至るも未だ第二室は半分程かゝりしのみ、幹事連大いに苛立つ、觀者續々と来る、壹室のみ觀覽を許す。  
十時萬事調ふ。休憩室出來、眞中に菊花を、第一室第二室へ青木を飾る、體裁大いに振ふ、十時半、小島氏山崎氏磯氏来る。十一時前後、二日中最も入場者多數の時にて、室内暗くなる程に至る、幹事連とび上りく、喜ぶ。  
二時半より雨となる休憩室大いに賑ふ。

六時閉會、入場者千人以上、賣約ずみ二點。

十月十七日 雨天

朝七時前より觀者來る、雨なれ共相變らず大入なり、午后、會員小林氏會場内寫眞取る。

六時閉會、直様取りかたづける、九時全部終り。

## 報 告

### 日本水彩畫會横濱支部展覽會報告

拜啓書面を以て展覽會の大略報告申上候

十月十五日 雨天

午后より會場の仕度に取りかゝる、萬事手違ひにて非常に遅れ學校よりは午后九時以後の夜業を禁ぜらるたために幕を張りしのみにて終り。

幹事の心痛一方ならず、夜田中宿直。

十月十六日晴 後大雨